

蓮池文庫について

歴代二宮家の当主の雅号は「蓮」の字を取り入れたものが多い。第6代当主二宮孝順（敬太郎）は庭前の池にあやかって雅号を「蓮池（れんち）」と称し、明治42年（1909）、主屋の離れに図書館を建築して「蓮池文庫」と命名した。

蓮池文庫は私設図書館であり、無料公開の公共利用をしていたものではなかったと思われる。※1 現在の「日本十進分類法」ではないながら分野別に図書が整理され、蔵書目録や目録カードが作成されている。

所蔵図書には様々な分野が揃い、また江戸時代の漢籍や国書まで所蔵している。第5代～7代当主が俳句をよくしていたことから江戸時代末～昭和初期までの俳句集も多く残っているものと思われ、地域文芸の隆盛に多大な貢献してきたといえる。

郷土史への関心も高いと思われ、昭和12年（1937）に郷土史家 大木金平の編著で『北蒲原郡史（第三巻）』を蓮池文庫から出版している。江戸時代の古記録などを元に、北蒲原郡域の歴史や制度・習俗・伝説・信仰・俗謡などを収録したものであり、地域誌の先駆的な図書である。※2

図書館であった「離れ」はその後、若夫婦の住居として使われ、所蔵図書は現在の1号土蔵（明治8年築）に収められている。

※1）全国では明治32年（1899）の図書館令で公私立図書館に関する法令が出されたが、当初32か所しかなく、道府県の自治体でも図書館をもたないものが多かった。大正～昭和初期に図書館が急増している。なお、聖籠町としての図書館の開設は昭和58年（1983）である。

※2）『北蒲原郡史』は編纂時、何巻かにわたって作る予定であったが、何らかの事情により第三巻のみの出版となってしまったようで、第一・二巻は存在しない。